

## 果樹の下の草の放射性セシウム保持の汚染防止効果

石井慶造<sup>1)</sup>、結城秀行<sup>2)</sup>、寺川貴樹<sup>1)</sup>、松山成男<sup>1)</sup>、長久保和義<sup>1)</sup>、菊池洋平<sup>1)</sup>、山崎浩道<sup>2)</sup>

東北大学大学院工学研究科<sup>1)</sup>、東北大学サイクロトロン・R I センター<sup>2)</sup>

## 1. 目的

果樹の下は、多くの場合草が生えており、その草の下に果樹の根が伸びている。従って、放射性セシウムが降下し、草の根に保持された場合、果樹の根に放射性セシウムが届かなくなるため、果実には放射性セシウムが移行されないことになる。この効果を調べる。

## 2. 方法

相馬市において、多くの梅園の梅が500ベクレル/kgを超えたことが報道された。そこで、草が生えている梅園の果実の比放射能を測定した。

## 3. 結果（平成23年6月27日）

表1に、相馬市の草が多く生えている梅園での果実の比放射能を示す。梅の比放射能は68ベクレル/kgと500ベクレル/kgを約一桁下まわった。このことより、果樹の下の草の根は、放射性セシウムを保持し、果実の放射能汚染の防止に役立っている可能性があることが分かる。

測定月日	No.	検体	採取場所	放射能 (Bq/kg)			
				I-131	Cs-134	Cs-137	Cs合計
6/13	1	ウメ	無洗淨	n.d.	28	40	68

表1 梅の比放射能（2011年6月13日測定）

作成者：石井慶造